

# 第1学年 算数科学習指導案

令和5年10月25日(水) 6校時  
児童 第1学年3名 授業者 今堀 友雅

1. 単元名「ひきざん」(東京書籍)
2. 単元ゴールと指導

単元の目標
11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。
学習指導要領の位置づけ
A(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア【知・技】 (イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 (エ) 簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。 イ【思・判・表】 (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること 【学・人間性】 11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方について、「10といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

児童の実態	単元の学習の関連と発展
<p>○レディネステストの結果、繰り下がりのない減法計算は概ね正答していた。しかし、10いくつかから1位数をひく問題を苦手を感じている児童もいる。</p> <p>○1位数の加減及び減法はすべての児童ができるが、「いくつといくつ」という数の見方の定着が不十分な児童がいる。</p>	

単元計画【全9時間】
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「10といくつ」という数の見方に着目して、繰り下がりのある減法計算で被減数を分解する計算方法(減加法)を知る。<b>習得</b>本時</li> <li>2. 被減数を分解して計算する方法を図やブロックを用いて説明し、減加法を理解する。</li> <li>3. 繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法の理解を確実にする。</li> <li>4. 減数が9～5の場合の計算練習に取り組む。</li> <li>5. 「10といくつ」という数の見方に着目して、繰り下がりのある減法計算で被減数を分解する計算方法(減減法)を理解する。</li> <li>6. 繰り下がりのある減法計算で、減加法や減減法を使った計算の仕方について理解を深める。</li> <li>7. 計算カードを用いて、繰り下がりのある減法計算の能力を伸ばす。</li> <li>8. 計算カードを用いて、数の並び方の規則性を見だし、数の関数的な見方に気付く。</li> <li>9. 単元の学習内容を確認、習熟を図る。</li> </ol>

研究主題との関連
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なツールの使い方や解決方法を身に付け、自分に合った方法で課題解決ができるようにする。</li> <li>・学習リーダーを中心に、友だちと協働しながら学習を進めることで、数学的な見方・考え方を豊かにする。</li> </ul>

単元終了時の子どもの姿(ゴール)
<ul style="list-style-type: none"> <li>☆繰り下がりのある減法計算において、場面を式に表したり、減加法や減減法を使って計算したりすることができる。</li> <li>☆「10といくつ」という数の見方を基に、ブロック操作や図を用いて繰り下がりのある減法計算の仕方を説明することができる。</li> <li>☆繰り下がりのある減法計算を学んだことのよさや楽しさを感じながら、活動している。</li> </ul>

# 第2学年 算数科学習指導案

令和5年10月25日(水) 6校時  
児童 第2学年5名 授業者 今堀 友雅

1. 単元名「新しい計算を考えよう」(東京書籍)
2. 単元ゴールと指導

単元の目標
乗法の意味について理解し、計算の意味や計算の仕方を考えたり乗法に関して成り立つ性質を見いだしたりする力を養うとともに、計算方法などを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
学習指導要領の位置づけ
A(3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア【知・技】 (ア)乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。 (イ)乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 (ウ)乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。 (エ)乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。 イ【思・判・表】 (ア)数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること 【学・人間性】 数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理や乗法のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

児童の実態	単元の学習の関連と発展
<ul style="list-style-type: none"> <li>○レディネステストの結果、数を5ずつまとめたり、いくつ分あるか数えたりする問題は全員が正答していた。</li> <li>○自分の考えを言葉や式で表したり、友だちに説明したりすることが苦手な児童がいる。</li> </ul>	

単元計画【全18時間】
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 同じ数のまとまりを見つけ、「1つ分の数」や「いくつ分」という表し方を知る。</li> <li>2. 「1つ分の数」と「いくつ分」の関係の場合に乗法が用いられることを知り、乗法の意味を理解する。</li> <li>3. 乗法の場面を式やおはじきで表し、乗法の意味の理解を確実にする。</li> <li>4. 乗法の場面を式やおはじきで表し、乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。</li> <li>5. 倍の意味を知り、ある量の何倍かを求めるときもかけ算を用いることを理解する。</li> <li>6. 身の回りからかけ算の式になる場面を見つけ、学習を活用しながら問題を解決する。</li> <li>7. 5の段の九九の構成の仕方を理解する。</li> <li>8. 5の段の九九を確実に唱え、適用する。</li> <li>9. 5の段の九九を使う乗法の問題場面をつくる。</li> <li>10. 2の段の九九の構成の仕方を理解し、唱え方を覚える。</li> <li>11. 2の段の九九を用いて、問題を解決する。</li> <li>12. 3の段の九九の構成の仕方を理解し、唱え方を覚える。</li> <li>13. 3の段の九九を用いて、問題を解決する。 <b>活用</b>本時</li> <li>14. 4の段の九九の構成の仕方を理解し、唱え方を覚える。</li> <li>15. 4の段の九九を用いて、問題を解決する。</li> <li>16. 2つの問題を比べて、数量の関係に着目しながら、乗法の場面を言葉や式、図で説明する。</li> <li>17・18. 単元の学習内容を確かめ、習熟を図る。</li> </ol>
研究主題との関連
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の学習状況に応じて課題や解決方法を選択することで、自ら考えながら学習する態度を身に付ける。</li> <li>・学習リーダーを中心に、友だちと協働しながら学習を進めることで、数学的な見方・考え方を働かせ、よりよい解決方法を見つけ出す。</li> </ul>
単元終了時の子どもの姿(ゴール)
<ul style="list-style-type: none"> <li>☆乗法の場面を図や式に表して答えを求めたり、乗法九九(2~5の段)を確実に唱えたりすることができる。</li> <li>☆「1つ分の数」、「いくつ分」などのキーワードや累加の考えを用い、乗法の計算の意味や計算の仕方を説明することができる。</li> <li>☆身の回りから乗法九九の場面を探したり、今後の生活や学習に活用したりしようとしている。</li> </ul>

3. 本時の指導 (全9時間 本時 1/9)

- (1) 目標 「10 といくつ」という数の見方を生かし、繰り下がりのあるひき算の計算の仕方を考えることができる。
- (2) 評価規準 被減数を「10 といくつ」に分解して、繰り下がりのあるひき算を計算する方法を考えている。 **思・判・表**
- (3) 本時の展開

	○留意点 □評価	学習活動 (・予想される児童の反応)
導入	<p>○既習のひき算の計算方法を確認する。</p> <p>○十いくつー1位数のひき算では、一の位どうしを計算したことを振り返る。</p> <p>○本時の問題では、一の位どうしが引けないことに気付かせる。</p>	<p>1. 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1ねんせい、どんぐりを13こひろいました。おもちゃづくりで9こつかいました。どんぐりは、なんこのこっていますか。</p> </div> <p>2. めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どんぐりのかずは、どうしたらわかるだろう。</p> </div>
展開	<p>○ブロックを操作して考えさせる。10のまとまりに着目できるようにケースを使う。</p> <p>○ノートに考えを書かせる。</p> <p>○ブロックを操作しながら友だちに説明する。どこから9をひいているかに着目させる。</p> <p>□被減数を「10 といくつ」に分解して、繰り下がりのあるひき算を計算する方法を考えている。 <b>思・判・表</b> (発言、ノート)</p> <p>○導入で扱った <math>16-4</math> との計算方法の違いを確認する。</p>	<p>3. わかりタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・式は <math>13-9</math> になる。</li> <li>・3から9はひけない。</li> <li>・10から9をひくとどうかな。</li> </ul> <p>4. 共有 (ペア→全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○○さんと同じ考えだったな。</li> <li>・9を数えてとるより、10からひくと簡単な。</li> </ul> <p>5. 考察をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ばらどうしがひけないときは、10のまとまりからひいたらいい。</li> </ul>
まとめ	<p>○まとめの書き出しに続けて考えさせる。</p> <p>○振り返りの視点を提示する。</p>	<p>6. まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>㊦どんぐりのかずは、10のまとまりからひくとわかる。</p> </div> <p>7. 振り返りを書く。</p>

(4) 準備物 どんぐり、教科書の拡大コピー、児童用ブロック、ホワイトボード、板書用ブロック

(5) 板書計画

10/25

(水)

㊤ 1ねんせい、どんぐりを13こひろいました。おもちゃづくりで9こつかいました。どんぐりは、なんこのこっていますか。

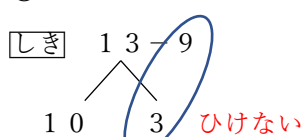
㊦ ひきざん  
 $13-9$   
 ばらどうしがひけない。

㊦どんぐりのかずは、どうしたらわかるだろう。

㊧ ブロックをつかう。  
 10のまとまりとばらにわける。

㊨

しぎ




$10$     $3$    ひけない

10から9をひく。  
 $10-9=1$

1と3をたして4

ブロック



9をひく

㊩ ばらどうしがひけないときは、10のまとまりからひく。のこったかずを、あとからたす。

㊦どんぐりのかずは、10のまとまりからひくとわかる。

㊪

3. 本時の指導 (全 18 時間 本時 13/18)

(1) 目標 3の段の九九を文章問題や問題づくりに適用することができる。

(2) 評価規準 3の段の九九を唱えることができ、それを用いて問題を解決している。 知・技

(3) 本時の展開

	学習活動 (・予想される児童の反応)	○留意点 □評価	
	1. 課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">3のだんの九九をつかってもんだいをつくりましょう。</div>	○前時に学習した3の段の九九の構成を振り返り、3の段の九九を唱える。	導入
	2. めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">3のだんの九九をつかったもんだいのつくり方を考えよう。</div>		
	3. わかりタイム ①教科書の練習問題に取り組む。 ②問題をつくる。 ・3つ入りのお菓子の場面にしようかな。 ・串団子は3つずつになっているな。 ③友だちがつくった問題に取り組む。	○見通しで、本時の活動内容を確認する。  ○問題づくりはChromebookで行う。ヒントを用意しておく。 □3の段の九九を唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">知・技</span> (Chromebook、ノート) ○3の段の九九を唱えたり、問題を解決したりする際にポイントとなることを確認する。	展開
	4. 考察をする。 ・答えが3ずつ増えているからたし算をしていけばいい。 ・ $3 \times 5 = 15$ は5の段と数字が反対になっているな。		
	5. まとめをする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">④3のだんのもんだいは、こたえが3ずつふえることをつかうとつくることができる。</div>	○まとめの書き出しに続けて考えさせる。	まとめ
	6. 振り返りを書く。	○振り返りの視点を提示する。	

(4) 準備物 Chromebook、3の段の九九表

(5) 板書計画

10/25  
(水)

④ 3のだんの九九をつかってもんだいをつくりましょう。

⑤ 九九タイム  
こたえが3ずつふえていた。

⑥ 3のだんの九九つかってもんだいをつくらう。

⑦ ①文しょうもんだい  
②もんだいづくり  
③もんだいを出し合う。

3の段の九九表

⑧

文章問題  
①

しき  $3 \times 7 = 21$   
答え 21 cm

文章問題  
②

しき  $3 \times 6 = 18$   
答え 18 こ

⑨ こたえが3ずつふえる。たし算をしていくと分かる。  
 $3 \times 5 = 15$  がおぼえやすい。

⑩ 3のだんの九九は、こたえが3ずつふえることをつかうとおぼえやすい。

⑪